

献辞 田上博司学長退任記念号の刊行を祝して

今般の阪南論集特別版『田上博司学長退任記念号』の発刊に際し、ご挨拶を申し上げます。

田上博司先生は神戸大学経営学部卒業後、大阪トヨタ自動車株式会社人事部を経て、学校法人帝塚山学院本部事務局総務課に入職され、帝塚山学院総合情報センター長等を歴任した後、2004年4月に阪南大学経営情報学部専任講師に採用されました。2009年4月には経営情報学部教授に昇任され、その後教務部長、経営情報学部長等の要職に就かれ、2018年4月から2024年3月まで阪南大学長を2期6年間の長きに亘って本学園を支えるとともにその発展に多大な貢献をなされました。

研究面ではこれまで6冊の著書を著わし、主なものとして『デジタルサウンド・プロセッシング』（二瓶社、2003年3月）、『マルチメディア情報学概論』（二瓶社、2006年1月）、『デジタルコミュニケーション—ICTの基礎知識』（晃洋書房、2007年6月）、『デジタルアニメーション—Flashの基礎技法—』（阪南大学叢書 No.96 / 晃洋書房、2012年10月）が挙げられ、現在のデジタルトランスフォーメーション(DX)時代に必要不可欠なIT情報化社会の最先端を行く研究をいち早く積み重ね、さまざまなデジタルに関わるコミュニケーション戦略を提示しました。

教育面ではゼミ所属学生を熱心に指導され、2016年8月に『プロジェクトマッピング』を和歌山マリーナシティでの開催を皮切りに、地元松原市を始め、2019年9月には遠く鳥取県若桜町で実施されるなど、経営情報学部のブランド資産の育成に邁進してきたと言えます。そのことは現在の総合情報学部の情報系教員にも受け継がれていることから、非常に価値ある取り組みであったと考えられます。

学内行政では2009年4月に教務部長(2015年3月まで)、2015年4月からは経営情報学部長(2018年3月まで)を務めあげられ、2018年4月からは阪南大学長(2024年3月まで)に就任されました。

学長としての実績は第一にAI・データサイエンス教育への理解と積極的な導入です。これは文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」の認定を受け、2020年より全学部全学年向けの「AIデータサイエンスリテラシーパッケージ」から始まり、2022年には文部科学省は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)」を創設しましたが、関西圏の大学における第1期採択校は阪南大学、京都大学、大阪大学の3校のみという快挙を達成するなど、学長としてのその先見の明は評価されてしかるべきものです。チャレンジ精神あふれる行動力を示されたということになります。第二に、2020年に日本国内でも新型コロナウイルスが感染拡大した際にも、その危機管理能力を発揮し、学生と教職員の安全と安心に向けた戦略を展開したことです。オンライン授業へ向けては、学内外の資源を有効活用するとともに、さまざまな施策を次から次へと打ち出され、その都度的確な情報提供とその実践を強力に推進されたことは記憶に新しいかと思われまます。

このように田上博司先生は阪南大学のために誠心誠意をもって自らが先頭に立ち、教職員を絶えず鼓舞しながら突き進まれてきたということになります。

阪南大学評議会は長年に亘り本学の発展に寄与された先生を顕彰するために、本年4月に名誉教授の称号の授与を決め、贈らせていただきました。さらにこれまでの先生の労に応えるために阪南大学学会はここに田上博司学長退任記念号を編纂し、刊行することにしました。

今後ともどうかご健康に留意され、ますますのご活躍を衷心から祈念いたしております。

令和6(2024)年5月

本キャンパスの新緑を眺めつつ

阪南大学学会 会長・阪南大学長

平 山 弘